

けんぱくものしりシート

かたい ふくげん も けい 銚帯 復元模型



ケンくん むかし 昔のベルトだ!



ハクちゃん むかし 昔の人は、どんな服を着ていたのかなあ?

- 見つかったところ：はなまき 花巻市しくまどう 熊堂古墳群（かなぐ 金具だけが見つかりました。）
- 使われていた時代：おもに おもにならじだい 奈良時代（710～794年）
- 展示されている銚帯復元模型は、ならけん 奈良県のしょうういん 正倉院に伝わる「くろつくりしおび 烏油腰帯」をもとに作られました。

かたい 銚帯は、こだい 古代のきぞく 貴族ややくにん 役人が身分をしめすために使っていたベルトです。

こだい 古代の日本では、ずい 隋やとう 唐（こだい 古代のちゆうごく 中国）をてほん 手本にしてりつりょう 律令（くに 国を治めるためのほうりつ 法律）が作られました。きぞく 貴族ややくにん 役人のふくそう 服装もりつりょう 律令によって細かく決められ、ふくそう 服装を見るとその人のひと 身分がわかるようになっていました。

銚帯の部品

か こ 鉸 具

ベルトをしめる

かなぐ 金具です。



まる とち 丸 鞆 と 巡 方

こしかざ 腰飾りです。まるとも 丸鞆4個と

じゆんぼう 巡方7～8個を組み合わせています。

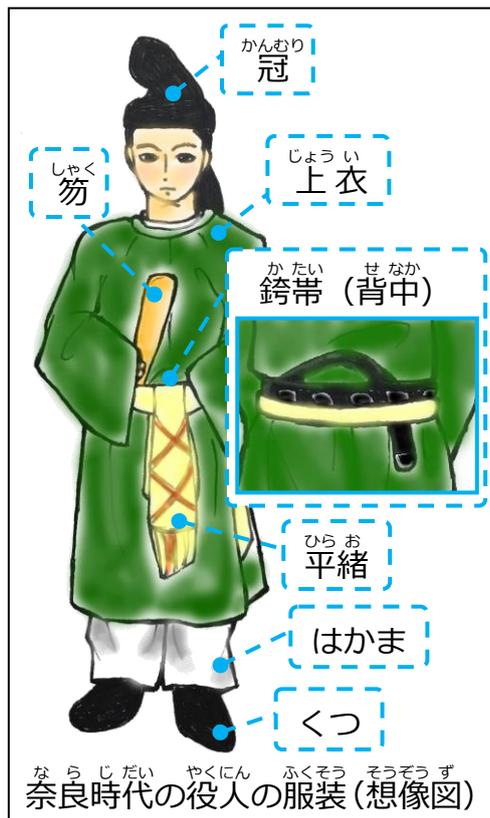



だ び 鉈 尾

いちばんうし 一番後ろに

ついています。





鍔帯の素材も身分によってちがいがあり、五位以上の身分の高い貴族は金や銀を使い、六位以下の身分の低い役人は銅に黒い漆をぬったものを使うよう決められていました。

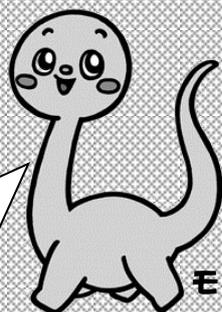
鍔帯は、古墳(土を高く盛った古代のお墓)から見つかることがあります。岩手県内でも、数はあまり多くありませんが、盛岡市太田蝦夷森古墳群や金ヶ崎町西根縦街道古墳群などから見つかっています。

奈良時代から平安時代(794~1185年)初めごろの岩手県をふくむ東北地方北部は、都の支配がおよばない外国であり、そこに住む人

々は「蝦夷」と呼ばれていました。しかし、この地方の人々は交易(人や物がたがいに行き来すること)を通して、都とつながりを持っていました。「蝦夷」と呼ばれた人々の中には、友好(親しく付き合うこと)の印として、朝廷(天皇が政治を行う場所)から位とその身分に合わせた鍔帯や服を与えられた有力者(その社会で力を持っている人)もいました。有力者が亡くなった後、鍔帯や服を身に付けたすがたで、古墳にほうむられたと考えられます。鍔帯は、古代の岩手の人々の生活について教えてくれる、大切な資料です。

参考にした本『いわて未来への遺産 遺跡は語る』岩手日報社 2000年/『衣食住にみる日本人の歴史2 飛鳥時代~平安時代 王朝貴族の暮らしと国風文化』あすなろ書房 2002年 他

来月(9月)の
けんぱくものしりシートは
歴史-11だよ!
おたのしみに!



岩手県立博物館

〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34
Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214
<http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/>